

保護者様

令和7年度 前期自己評価について（お知らせ）

標記につきまして、国が定めております幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、認定こども園は教育・保育の質の向上を図るため、保育教諭等の自己評価を踏まえ、教育・保育の計画の展開や保育の内容について前期分の評価を終了いたしましたので、お知らせいたします。なお、ご報告が遅くなりお詫び申し上げます。

【評価の目的】

- ・評価をすることで保育教諭等の専門性の向上と共に課題を明確化し、こども園全体の質の向上を図る。
- ・保育教諭等一人ひとりが、自己の教育・保育を振り返り、基盤となる子どもの理解を深めることで、日々の教育・保育実践の意味を考え、職員同士で協力体制を強化しながら次のより良い実践へ繋げていく。



【評価の方法】

- ① 認定こども園教育・保育指針に基づく保育者のための「自己評価チェックリスト」を使い、第1章から第7章について各々自己評価をし、平均値を出し全体傾向をグラフにしました。
- ② 「保育を振り返る会」を0.1.2歳児クラス、および幼児クラス（3.4.5歳児）毎に開き、保育教諭等および園長、主幹保育教諭が参加をした。会では自分たちが心を動かされた多くの子どもの成長、そして半年間実践してきた教育また保育を振り返り、教育・保育について語り合う会とした。
- ③ 「人権擁護のためのセルフチェックリスト」の活用。園内研修における振り返りの実施。

【今期の評価を通して見えたこと】

- ① チェックリストの結果を令和6年度後期と比較すると第5章指導計画作成に当たって配慮すべき事項が8%、第6章研修と自己評価が前期評価より5%下回り、他項目ではほぼ同率の結果であった。第5章指導計画作成にあたって配慮すべき事項においては、新年度を迎え、新クラススタートという環境下、目の前の子ども達の姿を捉え計画を作成するまでに時間を要した為、評価が伸びなかったということが推察される。また、第6章の研修と自己評価にあたっては、自己評価等で個々の課題は見つかったものの解決に向けて、計画的な実践に至らなかったということが推測される。今後も自身の保育を振り返る中でその時々課題に合った研修を受講する機会を増やし、保育の質を高めていきたいと考える。
- ② 「保育を振り返る会」ではチームの保育向上に繋がるよう、未満児は各クラスで、幼児3クラスは合同で行った。半年間の保育を振り返り、教育・保育を進める中で、子どもたち一人ひとりと向き合いその時感じた思いや感動、捉えたその成長した姿を振り返り伝え合うことが出来た。また、それぞれが実践してきた保育を認め合い、共有し、自己の成長も実感する結果となっている。伝え合う中、保護者との信頼関係を構築できたこと、そして子どもから向けられる信頼、愛情を思い、感謝や喜びを感じる場面や、自信の保育を振り返り共有する事で新たな課題に気付き、今度の目標に向かって前向きな姿勢を示す職員の姿も合った。自身の事のみでなく、その実践が他の保育者に支えられている思いに繋がりが、チームメンバーへの感謝と共に、共通認識することができた。今後のより良い保育の実践に繋がるものと考えている。
- ③ 「人権擁護のためのセルフチェックリスト」は各々が、保育者としての、行動、子どもに関わりを振り返る為でもあり、「人権擁護」という視点から、自己の関わりを見つめ直し「子どもを尊重する保育」への理解と認識を深めることが出来ると考えるものである。年度初めにチェックリストを持ちより、読み合わせを行ったり、定期的にチェックリストを用いて自信の保育を見直すことで、子どもを尊重する保育を一人ひとりの保育者が意識できるようにしてきた。

今後も保育教諭・保育士は、一人ひとりが自己研鑽に努め、外部研修や園内研修での学びを深めることでより専門性を高め、実践する中で課題を明確にし共有することで、園全体の質の向上を図る。

これからも保護者の方、一人ひとりのお子さんに寄り添い、保育者として深い愛情を持って、子ども達と向き合っていく。また、自己の保育を振り返ることを怠らず、コミュニケーション力を高め、保育力、チーム力の向上に繋げていきたいと考える。



チェックリスト集計

令和7年度 前期

自己評価対象	チェック項目	項目数	「はい」の数	割合
第1章 総則		67	59.3	89%
	1 教育及び保育の基本と目標	13	12.2	94%
	2 特に配慮すべき事項	54	47.1	87%
	(1)教育及び保育の配慮	14	12.3	88%
	(2)健康支援	20	18	90%
	(3)食育	11	10.3	94%
	(4)特別支援教育・障害児保育	9	6.5	72%
第2章 子どもの発達		14	13.2	94%
第3章 「ねらい」及び「内容」		110	92.3	84%
	1 保育内容「健康」	22	20.4	93%
	2 保育内容「人間関係」	22	19.3	88%
	3 保育内容「環境」	22	15.3	70%
	4 保育内容「言葉」	22	20.4	93%
	5 保育内容「表現」	22	16.9	77%
第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項		40	37.6	94%
	1 乳児期の保育に関する配慮事項	28	25.9	93%
	2 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	12	11.7	98%
第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項		30	25.2	84%
第6章 研修と自己評価		15	12	80%
第7章 子育て支援		17	14.3	84%
	合計	293	253.9	87%

